

土器石器

イチジク形土製品は宮城県北で、
燕尾形石製品は秋田県や北上市でも
見つかっています。

イチジク形土製品



燕尾形石製品



燕尾形石製品



土玉使用例（復元）

土で作った玉（ビーズ）が、
150点ほど出土しています。
土玉には、白色と黒色の
2種類があります。



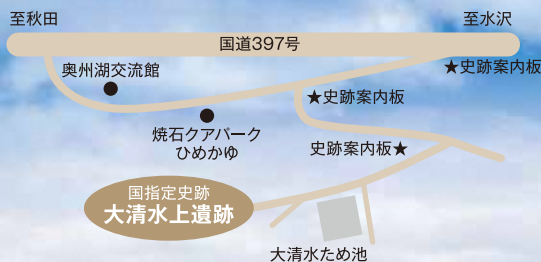
縄文土器



遺跡から出土した縄文土器

写真提供：（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

大木5式という縄文時代前期に
東北南部を中心に広く分布した土器。
ラッパ状に開く口縁部やドーナツ型、
W字型の模様が特徴です。



大清水上遺跡

おお
す
ず
か
み

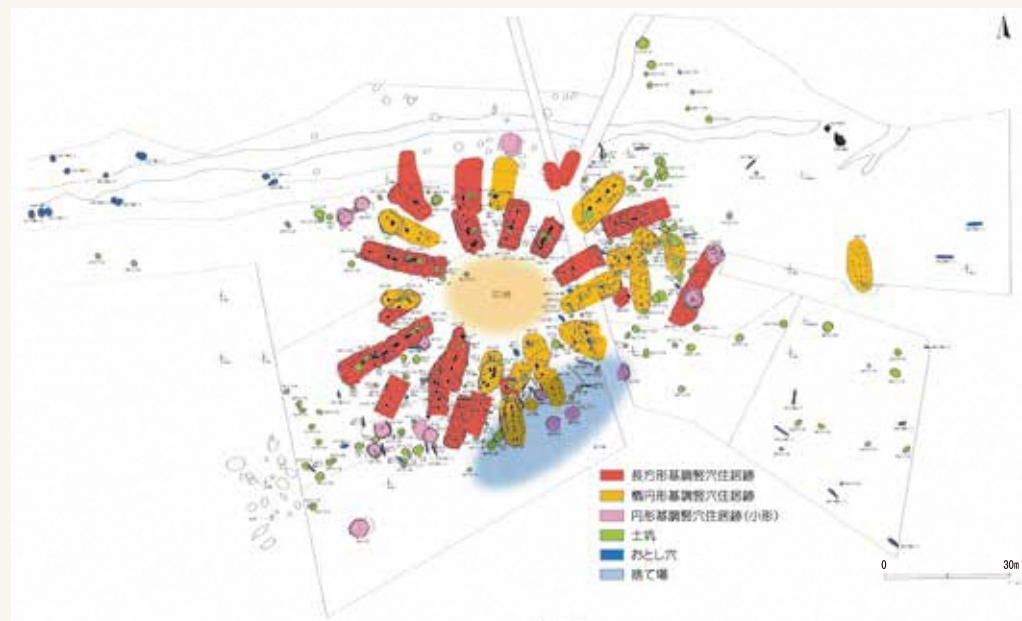
国
指
定
史
跡

大清水上遺跡



大清水上遺跡全景(直上)

写真提供：(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター



大清水上遺跡遺構配置図

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターより提供を受けた図面に奥州市が加筆(着色)

大清水上遺跡は、奥州市胆沢若柳字慶存に所在する、縄文時代前期後半(およそ5,000年前)の集落跡です。胆沢川によって形成された河岸段丘の中位段丘上野原面に位置し、標高は約280mとなっています。

胆沢ダム建設に際し、慶存地区がダムの堤体材料となるコア材(粘土質土)の採取予定地となったため、平成12年度から平成16年度まで5年にわたり、(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる大規模な発掘調査が実施されました。

調査の結果、たくさんの土器や石器とともに、長さ10mを

超える大型の堅穴住居が、中央の広場を中心に放射状に配置される「環状集落」が見つかりました。

住居には頻繁に建替えや拡張を行った跡があり、この場所で何世代かにわたって定住生活が続けられていたことがうかがえます。

また、イチジク形土製品や燕尾形石製品という宮城県北や秋田県との交流を物語る遺物も出土しています。「環状集落」は東北地方(秋田市、盛岡市より南側の地域)を中心とする、この時期の特徴的な集落の形ですが、大清水上遺跡では、これまで部分的にしかわからなかった「環状集落」の全体像を確認できた

ことが大きな成果といえます。

このようなことから大清水上遺跡は、「胆沢川流域における縄文時代前期の拠点集落としての意義はもちろん、北上川中流域の縄文文化研究、ひいては東日本の環状集落の形成過程や変遷を考える上で、貴重な学術的価値を持つ遺跡である」という理由で、平成20年7月28日、国史跡(指定面積45,683.74㎡)に指定されました。

※当地方では、伝統的に清水=湧水をスズと呼びならわしているため、遺跡の呼び名もオオスズ・カミと呼んでいます。